

# sp-12. 再帰と繰り返しの回数

(Scheme プログラミング)

URL: <a href="https://www.kkaneko.jp/pro/scheme/index.html">https://www.kkaneko.jp/pro/scheme/index.html</a>

金子邦彦





#### アウトライン



- 12-1 繰り返し計算
- 12-2 パソコン演習
- 12-3 課題

### 本日の内容



- ・再帰を使った、繰り返し計算
- ・数学の「再帰的定義」と、Scheme プログラムの関係
- •繰り返し回数
  - ・関数は「何回繰り返して」実行され るか



# 12-1 繰り返し計算

### 繰り返しの例



#### 階乗

「n - 1 の階乗」に n を足すことを繰り返す

#### ユークリッドの互助法

• m と n の最大公約数を求めるために, 「割った余りを求めること」を, 余りが 0 になるまで繰り返す



# 12-2パソコン演習

#### パソコン演習の進め方



• 資料を見ながら、「例題」を行ってみる

• 各自, 「課題」に挑戦する

• 自分のペースで先に進んで構いません

#### DrScheme の使用



- DrScheme の起動 プログラム → PLT Scheme → DrScheme
- 今日の演習では「Intermediate Student」 に設定

Language

- → Choose Language
- → Intermediate Student
- → Execute ボタン

### 例題1. 階乗



- ・階乗を計算する関数!を作り,実行する
  - 次の方針でプログラムを作成するn > 0 のとき, n! = n × (n-1)!

例) 6! = 6×5!

### 階乗



$$n!=1$$

• n > 0 のとき

$$n! = n \times (n-1)!$$

#### 「例題1. 階乗」の手順



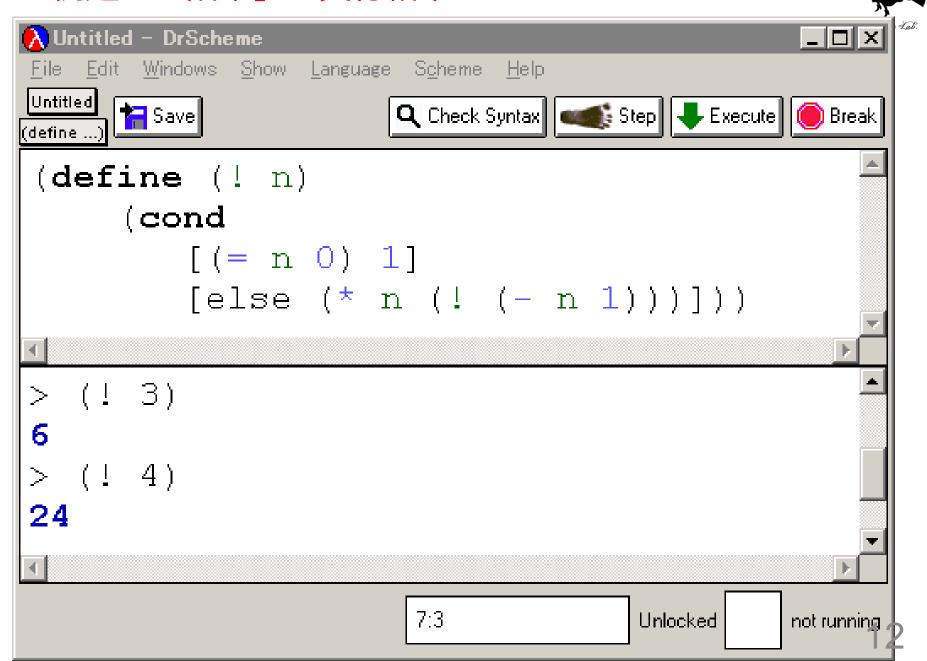
- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - 入力した後に, Execute ボタンを押す

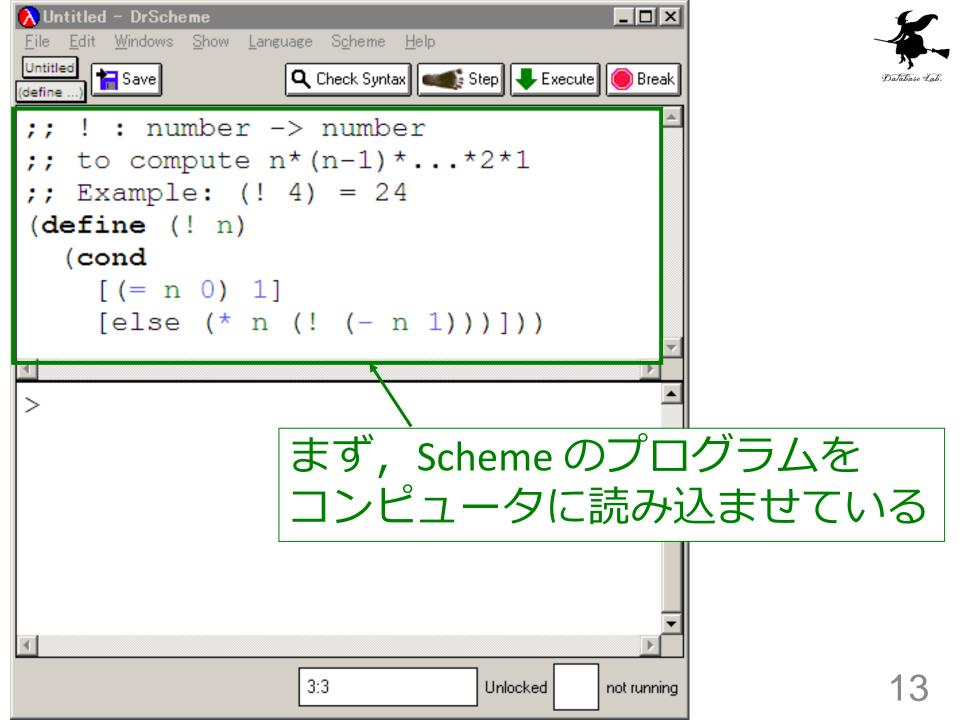
```
;;! : number -> number
;;to compute n*(n-1)*...*2*1
(define (! n)
  (cond
    [(= n 0) 1]
    [else (* n (! (- n 1)))]))
```

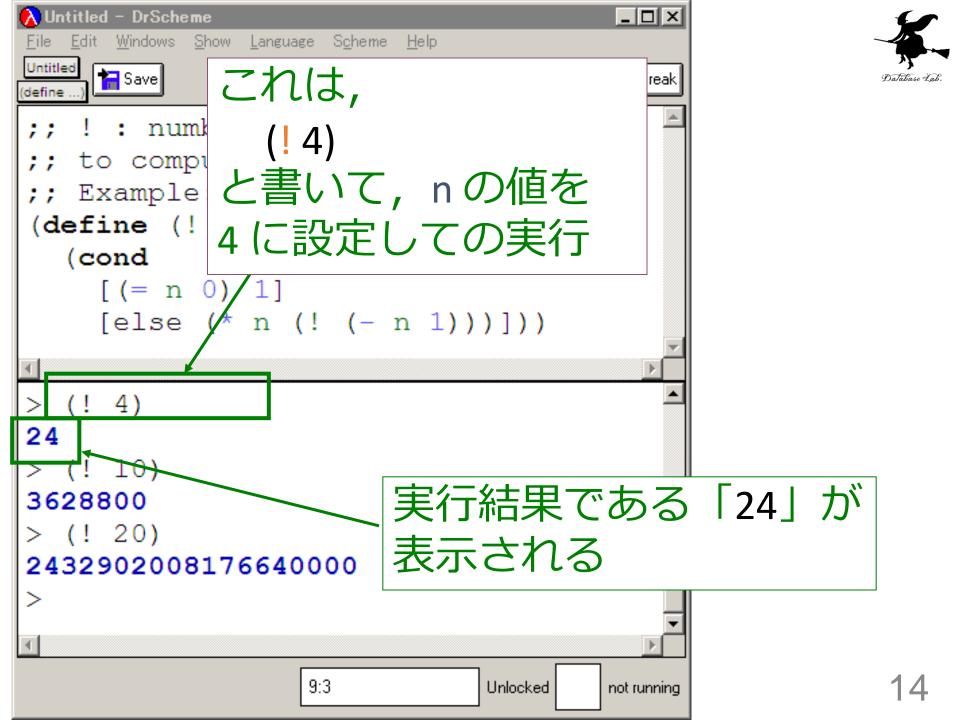
2. その後, 次を「実行用ウインドウ」で実行しなさい

```
(!3)
```

#### 「例題1. 階乗」の実行結果

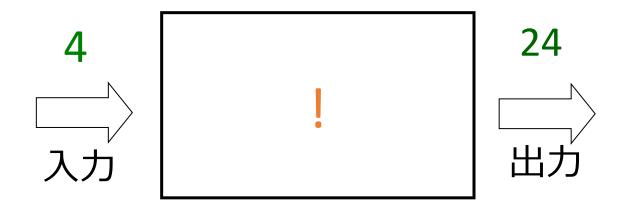






## 入力と出力





入力は数値

出力は数値

# ! 関数



```
;;!: number -> number
;; to compute n*(n-1)*...*2*1
;; Example: (! 4) = 24
(define (! n)
            0! = 1 である
  (cond
    [(= n 0) 1]
    [else (* n (! (- n 1)))]))
    n!は(n-1)!を計算して, nを掛ける
```

## 階乗



1. n = 0 ならば: → 終了条件
 1 → 自明な解

## 2. そうで無ければ:

- 「n - 1 の階乗」に n をかける⇒ 結局, 1 から n までのかけ算を繰り返す

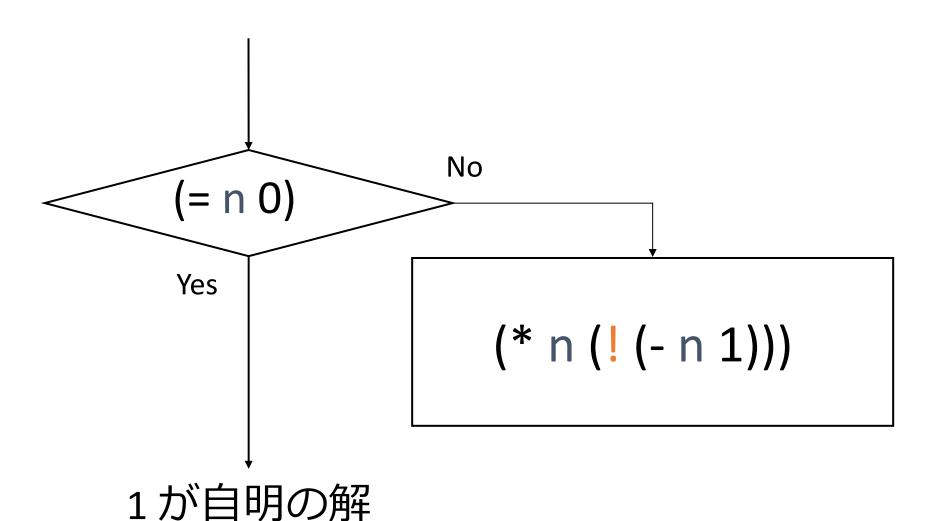
# 階乗



```
::!: number -> number
        ;; to compute n*(n-1)*...*2*1
        ;; (! 4) = 24
        (define (! n)
          (cond
           [(= n 0) 1] 自明な解
終了条件
            [else (* n (! (- n 1)))]))
```

### 終了条件





# 階乗



•!の内部に!が登場

```
(define (!n)
(cond
[(= n 0) 1]
[else (* n (!(- n 1)))]))
```

•!の実行が繰り返される

#### 例題2.ステップ実行



- 関数! (例題1) について,実行結果に至る過程 を見る
  - (! 3) から 6 に至る過程を見る
  - DrScheme の stepper を使用する

```
(define (! n)
(cond
[(= n 0) 1]
[else (* n (! (- n 1)))]))
```

```
(!3)
   (* 3 (! 2))
    (* 3 (* 2 (! 1)))
    (* 3 (* 2 (* 1 (! 0))))
     (* 3 (* 2 (* 1 1)))
* 3 (* 2 1))
```

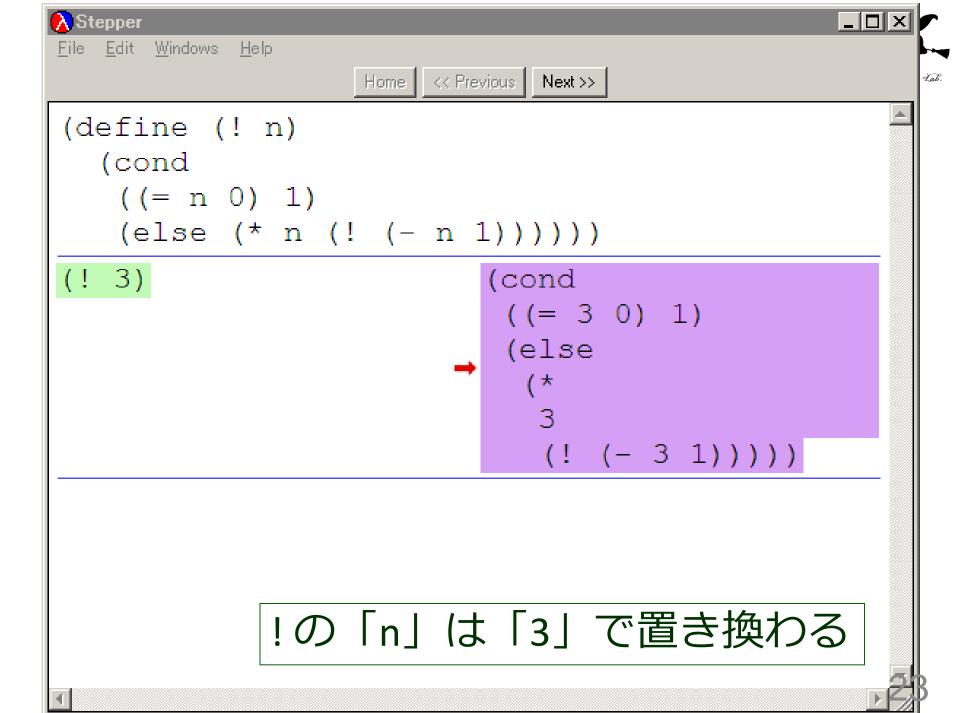
### 「例題2.ステップ実行」の手順

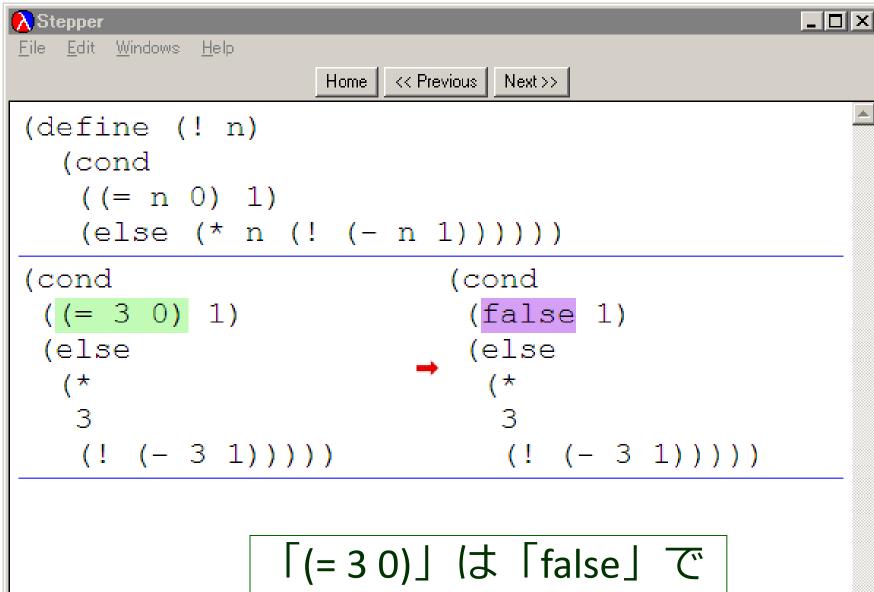


- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - Intermediate Student で実行すること
  - 入力した後に, Execute ボタンを押す

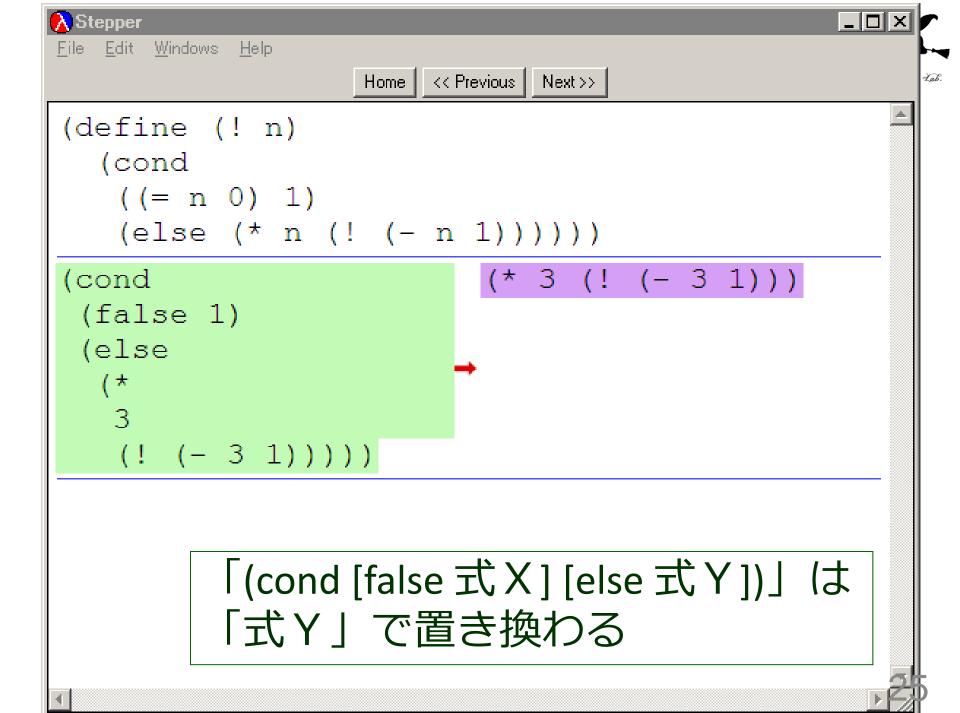
```
;;!: number -> number;;to compute n*(n-1)*...*2*1 (define (! n) (cond [(= n 0) 1] [else (* n (! (- n 1)))]))
```

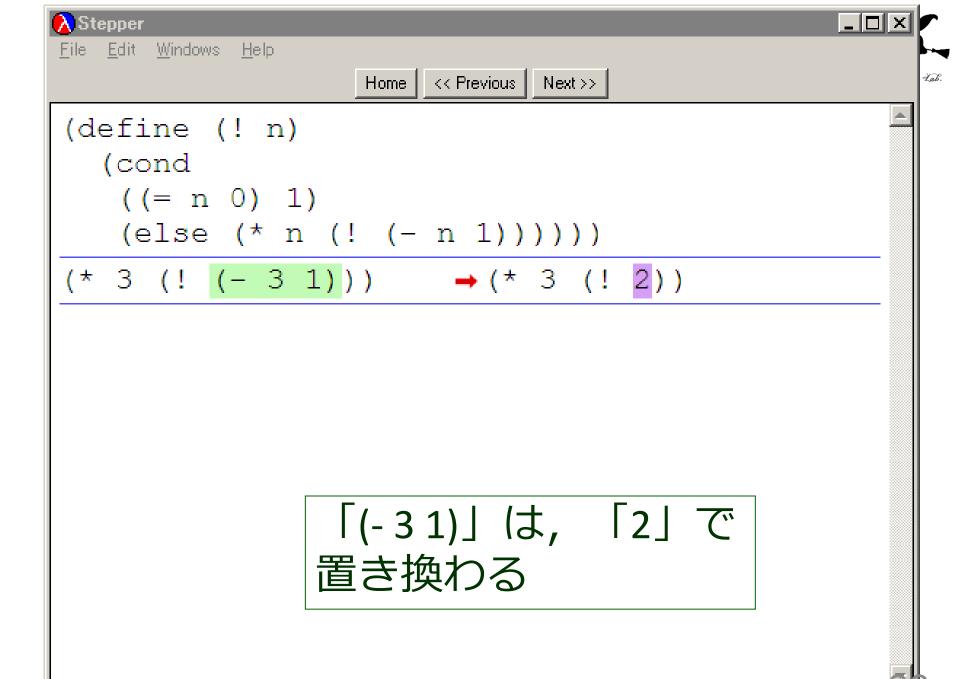
- 2. DrScheme を使って,ステップ実行の様子を 確認しなさい (Step ボタン,Next ボタンを使用)
  - 理解しながら進むこと

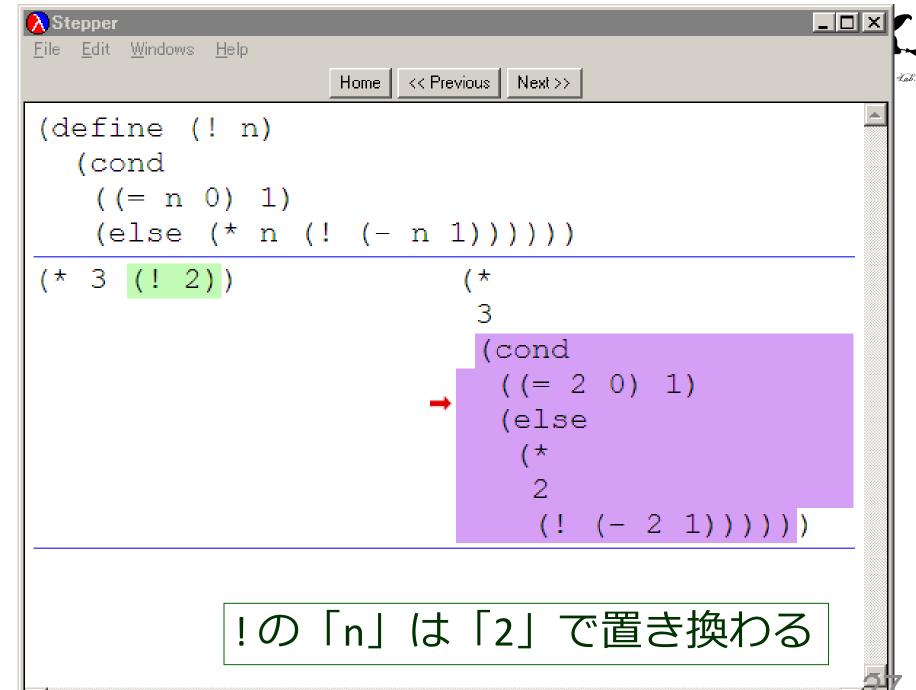




置き換わる







```
Home | << Previous | Next >>
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
( *
                             ( *
 (cond
                              (cond
                                (false 1)
  ( (= 2 \ 0) \ 1)
                                (else
  (else
   ( *
                                 ( *
    (! (-21))))
                             (! (-21))))
```

「(= 2 0)」は「false」で 置き換わる

```
<< Previous | Next >>
                    Home I
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
( *
                               (* 2 (! (- 2 1)))
 (cond
  (false 1)
  (else
   ( *:
    (! (-21))))
```

「(cond [false 式 X ] [else 式 Y ])」は「式 Y 」で置き換わる

「(-21)」は, 「1」で 置き換わる

```
<< Previous
                    Home |
                                  Next>>
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
(* 3 (* 2 (! 1)))
                               ( *
                                (cond
                                 ((=1\ 0)\ 1)
                                 (else
                                   ( *
                                    (! (-11))))))
```

!の「n」は「1」で置き換わる

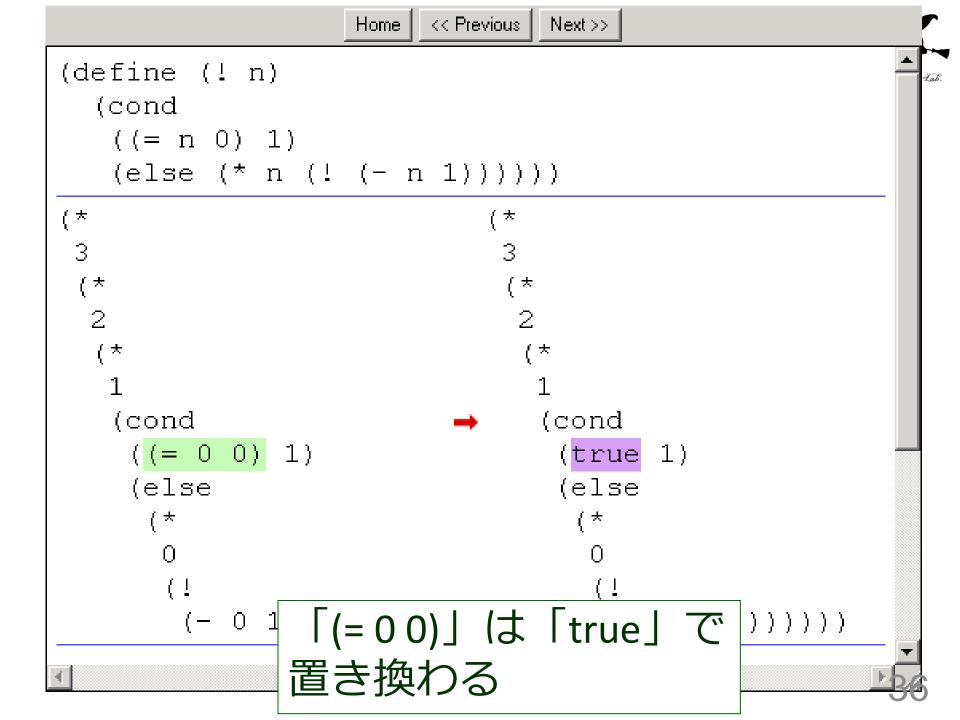
```
<< Previous
                              Next >>
                  Home I
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
(*
                          ( *
3
 2
  (cond
                            (cond
                             (false 1)
   ((= 1 0) 1)
   (else
                             (else
    ( *
                             (! (-11))))))
     (! (-11))))))
                「(= 1 0)」(は「false」で
               置き換わる
```

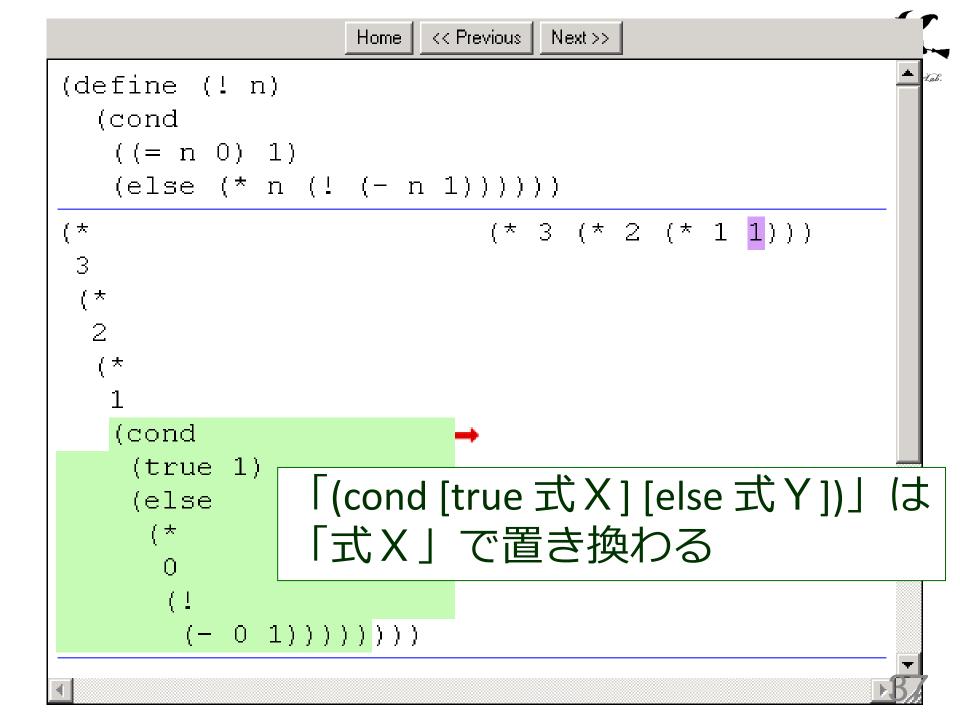
```
<< Previous
                  Home I
                             Next >>
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
( *
 2
                            (* 1 (! (- 1 1))))
  (cond
   (false 1)
   (else
     (! (-11)))))
         「(cond [false 式 X ] [else 式 Y ])」は
         「式Y」で置き換わる
```

```
<< Previous | Next >>
                     Home |
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
( *
3
 ( *
                            → (* 2 (* 1 (! 0))))
 2
  (* 1 (! (- 1 1))))
```

「(-11)」は, 「0」で 置き換わる

```
<< Previous
                   Home
                               Next>>
(define (! n)
  (cond
   ((= n \ 0) \ 1)
   (else (* n (! (- n 1)))))
( *
                            3
 (* 2 (* 1 (! O))))
                             2
                              (*
                               (cond
                                ((= 0 \ 0) \ 1)
                                (else
                                 ( *
                                  0
                                   (-\ 0\ 1)))))))
            !の「n」は「1」で置き換わる
```





「(\*11)」は, 「1」で 置き換わる

「(\* 2 1)」は, 「2」で 置き換わる

「(\* 3 2)」は, 「6」で 置き換わる

### (!3) から 6 が得られる過程の概略



(! 3) 最初の式

```
(* 3 (! 2))
= (* 3 (* 2 (! 1)))
 (* 3 (* 2 (* 1 (! 0))))
 (* 3 (* 2 (* 1 1)))
  (* 3 (* 2 1))
  (* 3 2)
                   コンピュータ内部での計算
```

## (!3) から 6 が得られる過程の概略



```
(!3)
                   この部分は
    (* 3 (! 2))
= (* 3 (* 2 (! 1)))
   (* 3 (* 2 (* 1 (! 0))))
   (* 3 (* 2 (* 1 1)))
   (* 3 (* 2 1))
   (*32)
   6
```

```
(!3)
= (cond
    [(= 3 \ 0) \ 1]
    [else (* 3 (! (- 3 1)))])
= (cond
    [false 1]
    [else (* 3 (! (- 3 1)))])
= (* 3 (! (- 3 1)))
= (*3(!2))
```

## (!3) から 6 が得られる過程の概略



```
(!3)
                              (!3)
                              = (cond
                 この部分は
                                 [(=30)1]
   (* 3 (! 2))
                                 [else (* 3 (! (- 3 1)))])
                               (cond
                                 [false 1]
  (* 3 (* 2 (! 1)))
  これは,
     (define (! n)
        (cond
          [(= n 0) 1]
          [else (* n (! (- n 1)))]))
  の n を 3 で置き換えたもの
```

### (!3)から6に至る過程



```
(* 3 (! 2))
(* 3 (* 2 (! 1)))
(* 3 (* 2 (* 1 (! 0))))
(* 3 (* 2 (* 1 1)))
(* 3 (* 2 1))
 (* 3 2)
```

#### 基本的な計算式への展開

```
「(! 3)」 が膨張して
「(* 3 (* 2 (* 1 (! 0))))」
になる
```

#### 演算の実行

「(\* 3 (\* 2 (\* 1 (! 0))))」が収縮して6になる

### 線形再帰的プロセス



・基本的な計算式へ展開

再帰の呼び出し回数(=ステップ 数ともいう)に比例して成長する ⇒「線形再帰」の名前の由来

### !が繰り返される回数



```
(! 3) (1)
= (* 3 (! 2)) (2)
= (* 3 (* 2 (! 1))) (3)
 (* 3 (* 2 (* 1 (! 0)))) 4
 (* 3 (* 2 (* 1 1)))
= (* 3 (* 2 1))
              n=3 のとき,
= (* 3 2)
              4回繰り返して実行される
```

## !が繰り返される回数

24



```
(! 4) (1)
= (* 4 (! 3)) (2)
= (* 4 (* 3 (! 2))) (3)
  (* 4 (* 3 (* 2 (! 1)))) (4)
  (* 4 (* 3 (* 2 (* 1 1))))
  (* 4 (* 3 (* 2 1))) | n=4 のとき,
  (* 4 (* 3 2))
                 5回繰り返して実行される
= (*46)
```

47

#### 例題3. 反復的プロセスでの階乗



- ・階乗を計算する関数!を作り,実行する
  - 次の方針でプログラムを作成するn > 0 のとき, 1 から開始して, 1 × 2×・・・×n を計算する

例) 
$$(!6) = 1 \times 2 \times 3 \times 4 \times 5 \times 6$$



- n! の計算
  - 1. まず, 1 に 2 を掛ける
  - 2. 次に, 3を掛ける
  - 3. • •
  - 4. n に達するまで続ける

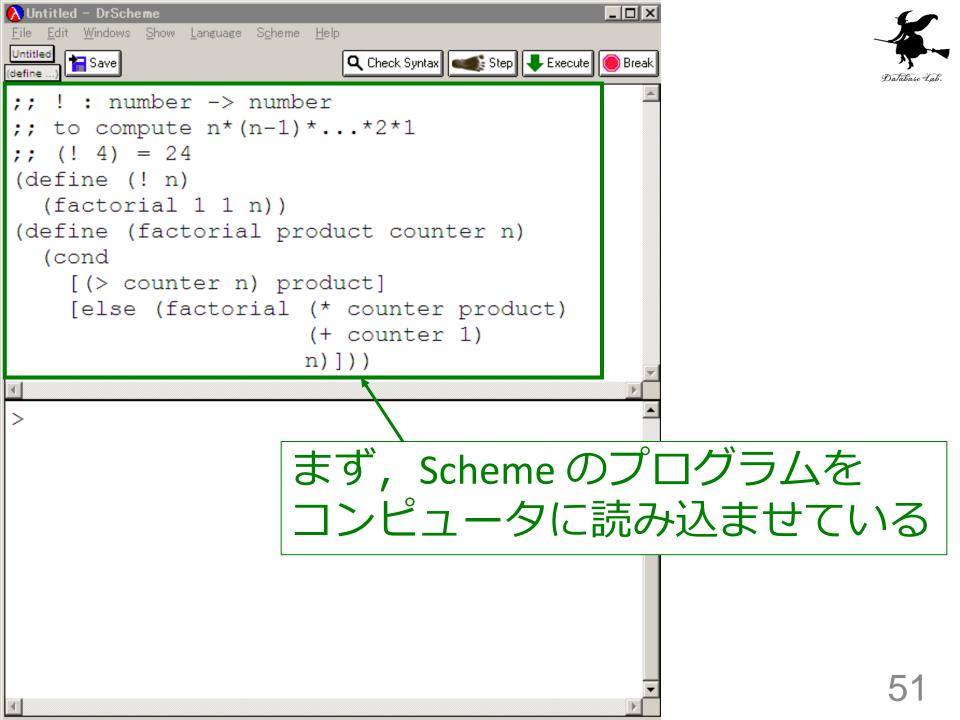
#### 「例題3. 反復的プロセスでの階乗」の手順

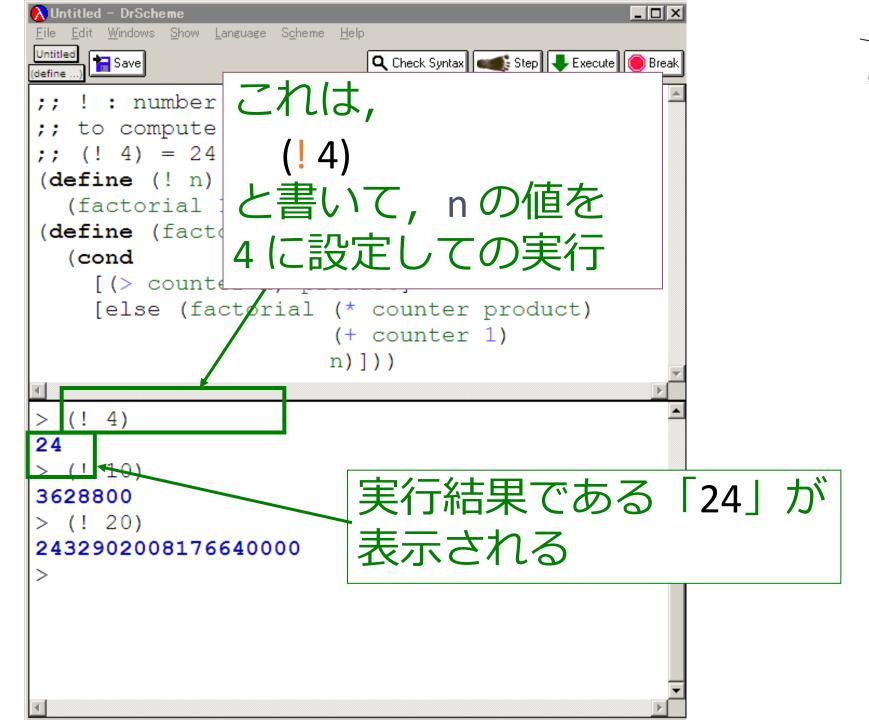
Tabilian Jak

- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - 入力した後に,Execute ボタンを押す

2. その後, 次を「実行用ウインドウ」で実行しなさい

```
(! 4)
(! 10)
(! 20)
```





## 入力と出力





入力は数値

出力は数値

#### !関数



```
;;!: number -> number
;; to compute n*(n-1)*...*2*1
;; (! 4) = 24
(define (! n)
  (factorial 1 1 n))
(define (factorial product counter n)
                            product ← counter • product
  (cond
    [(> counter n) product]
    [else (factorial (* counter product)
                  (+ counter 1)
                              counter ← counter + 1
```



counter: 1からnまで数えるカウンタ

product: 部分積(計算の途中結果)

とする.

product ← counter · product counter ← counter + 1

を繰り返す. counter が n に達するとn!が求まる



1. counter > n ならば:  $\rightarrow$  終了条件 product  $\rightarrow$  自明な解

## 2. そうで無ければ:

次を実行する

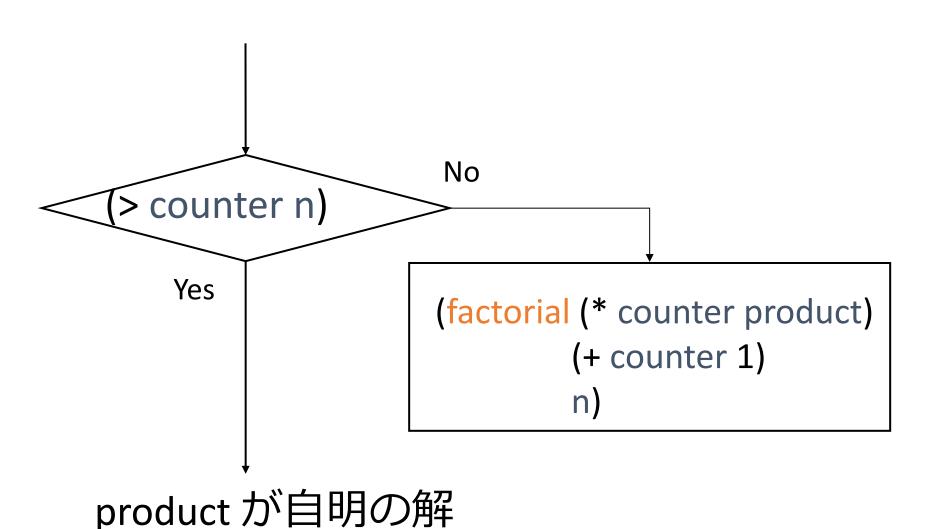
product ← counter • product counter ← counter + 1



```
;;!: number -> number
;; to compute n^*(n-1)^*...^*2^*1
                                        終了条件
;; (! 4) = 24
(define (! n)
  (factorial 1 1 n))
(define (factorial product counter n)
  (cond
                              自明な解
    [(> counter n) product]
    [else (factorial (* counter product)
                  (+ counter 1)
                  n)]))
```

#### 終了条件





#### 例題4.ステップ実行



• factorial の内部に factorial が登場

• factorial の実行が繰り返される

```
例: (factorial 6 4 10) = (factorial 24 5 10)
(factorial 24 5 10) = (factorial 120 6 10)
```

#### 例題4.ステップ実行



- 関数! (例題3) について,実行結果に至る過程 を見る
  - (! 4) から 24 に至る過程を見る
  - DrScheme の stepper を使用する

```
4)
(factorial 1 1 4)
 (factorial 1 2 4)
 (factorial 2 3 4)
 (factorial 6 4 4)
 (factorial 24 5 4)
```

## 「例題4.ステップ実行」の手順



- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - Intermediate Student で実行すること
  - 入力した後に, Execute ボタンを押す

- 例題3と同じ

- 2. DrScheme を使って、ステップ実行の様子を確認しなさい (Step ボタン、Next ボタンを使用)
  - 理解しながら進むこと

### (! 4) から 24 が得られる過程の概略



(! 4) 最初の式

```
= (factorial 1 1 4)
   (factorial 1 2 4)
  (factorial 2 3 4)
   (factorial 6 4 4)
   (factorial 24 5 4)
              コンピュータ内部での計算
```

### (!4)から24が得られる過程の概略



```
(!4)
   (factorial 1 1 4)
   (factorial 1 2 4)
   (factorial 2 3 4)
   (factorial 6 4 4)
    (factorial, 24, 5, 4)
```

product, counter の 値が変化する

- counter
  - → 繰り返し回数
- product
  - → 部分積

### 反復的プロセスの特徴



- 線形再帰的プロセスのような伸び縮みは無い
- 関数を再帰的に呼び出す各ステップで計算が実 行される

例 (! 3) = (factorial 1 1 3)

= (factorial 1 2 3)

= (factorial 2 3 3)

= (factorial 6 4 3)

各ステップで, product と counter に関する計算が 実行される



#### (factorial 1 1 4) から (factorial 1 2 4) が得られる過程



```
(!4)
                                      (factorial 1 1 4)
    (factorial 1 1 4)
                                      = (cond
                                           [(> 1 4) 1]
    (factorial 1 2 4)
                                           [else (factorial (* 11)
                                                        (+11)
                                                        4)])
    (factorial 2 3 4)
                                      = (cond
                                           [false 1]
                                           [else (factorial (* 11)
    (factorial 6 4 4)
                                                        (+11)
                                      = (factorial (* 1 1) (+ 1 1) 4)
    (factorial 24 5 4)
                                      = (factorial 1 (+ 1 1) 4)
                                      = (factorial 1 2 4)
```

#### (factorial 1 1 4) から (factorial 1 2 4) が得られる過程



```
(!4)
                                     (factorial 1 1 4)
    (factorial 1 1 4)
                                       cond
                                          [(> 1 4) 1]
    (factorial 1 2 4)
                                          [else (factorial (* 11)
                          この部分は
                                                       (+11)
     (factorial 2 3 4)
   これは,
      (define (factorial product counter n)
        (cond
          [(> counter n) product]
          [else (factorial (* counter product)
                     (+ counter 1)
   の counter を1で, product を1で, nを4で置き換えたもの
```

24

# (!4)から(\*4(!3))が得られる過程



```
(!4)
                              (!4)
                              = (cond
   (* 4 (! 3))
                  この部分は
                                  [(= 4 \ 0) \ 1]
                                  [else (* 4 (! (- 4 1)))])
                                (cond
= (*4(*3(!2)))
                                  [false 1]
  これは,
      (define (! n)
        (cond
          [(= n 0) 1]
          [else (* n (! (- n 1)))]))
  の n を 4 で置き換えたもの
     46)
```

### factorial が繰り返される回数



```
(!4)
= (factorial 1 1 4) (1)
  (factorial 1 2 4) (2)
  (factorial 2 3 4) (3)
   (factorial 6 4 4) (4)
   (factorial 24 5 4)(5)
             n=4 のとき,
             5回繰り返して実行される
```

## 例題5.繰り返し回数



次のプログラムでは、square は何回実行されるか (define (square x) (\* x x))
 (define (total-square x) (cond [(empty? x) 0] [else (+ (square (first x)) (total-square (rest x)))]))

#### 繰り返し回数



#### 実行結果の例

(total-square (list 10 20 30))

1400

• square は、リストの要素数だけ実行される

#### 例題6. 最大公約数の計算



ユークリッドの互助法を使って、2つの整数 m, n から、最大公約数を求めるプログラム my-gcd を作り、実行する例) 180,32 のとき: 4

• ユークリッドの互助法を用いる

#### ユークリッドの互助法



• 2 つの整数 m, n の最大公約数:

(m, n は正または0)

- n=0 なら最大公約数は m
- n ≠ 0 なら

最大公約数は,「mをnで割った余り」とnの最大公約数に等しい

#### 「例題6.最大公約数の計算」の手順



- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - 入力した後に, Execute ボタンを押す

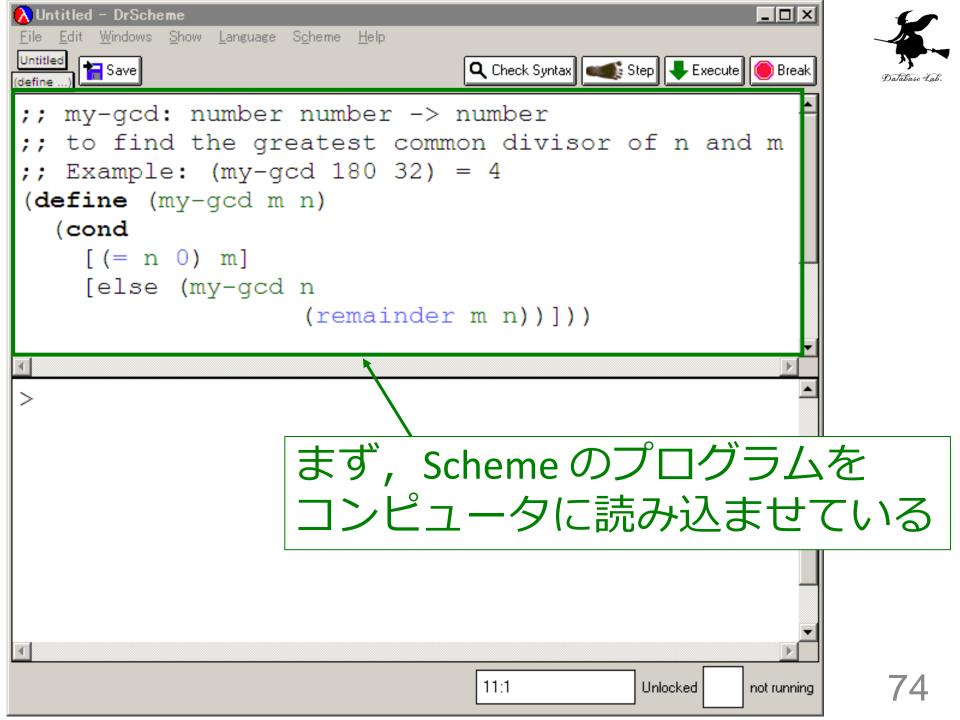
```
;; my-gcd: number number -> number
;; to find the greatest common divisor of n and m
;; Example: (my-gcd 180 32) = 4
(define (my-gcd m n)
  (cond
    [(= n 0) m]
    [else (my-gcd n
             (remainder m n))]))
```

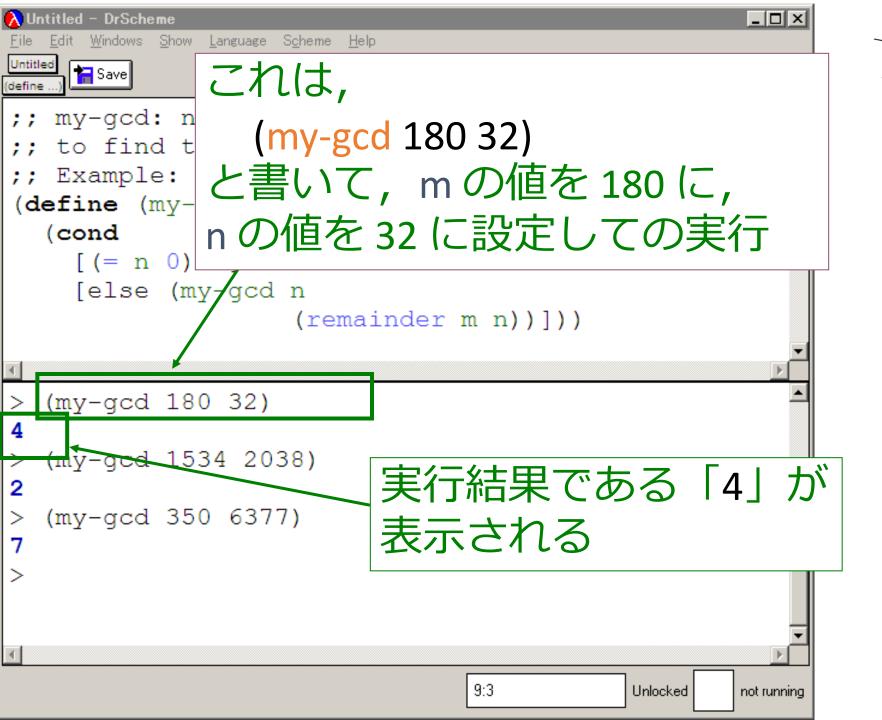
2. その後, 次を「実行用ウインドウ」で実行しなさい

(mygcd 180 32)



☆ 次は, 例題7に進んでください





## 入力と出力





入力は,2つの数値

出力は数値

# my-gcd 関数



```
;; my-gcd: number number -> number
;; to find the greatest common divisor of n and m
;; Example: (my-gcd 180 32) = 4
(define (my-gcd m n)
  (cond
    [(= n 0) m]
     [else (my-gcd n
               (remainder m n))]))
```

#### 最大公約数の計算



1. n = 0 ならば: → 終了条件
 m → 自明な解

## 2. そうで無ければ:

(1) n

(2) m を n で割った余り

の2数の最大公約数を求める.

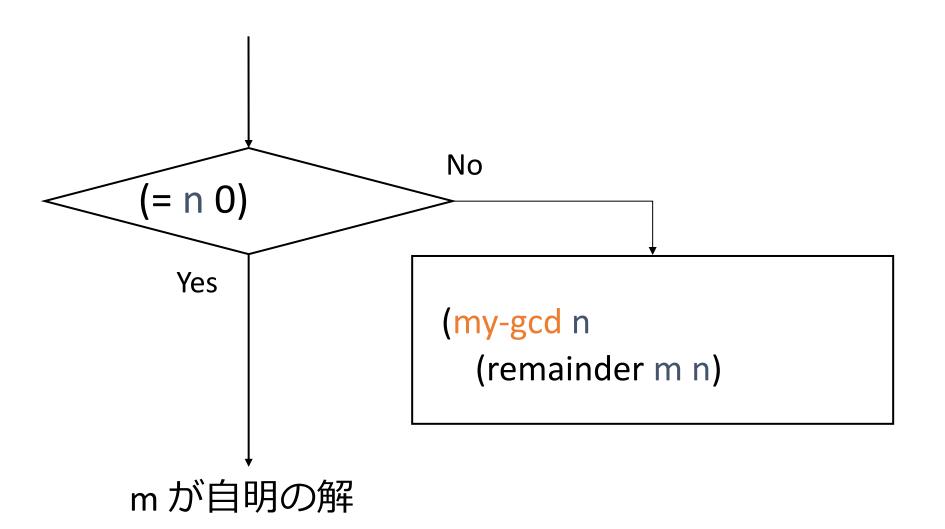
以上のことを, nが0に達するまで繰り返す8



```
;; my-gcd: number number -> number
  ;; to find the greatest common divisor of n and m
  ;; Example: (my-gcd 180 32) = 4
  (define (my-gcd m n)
    (cond
終了
条件 [(= n 0) m]自明な解
      [else (my-gcd n
                (remainder m n))]))
```

#### 終了条件





# 最大公約数の計算



• my-gcd の内部に my-gcd が登場

```
(define (my-gcd m n)

(cond

[(= n 0) m]

[else (my-gcd n

(remainder m n))]))
```

• my-gcd の実行が繰り返される

```
例: (my-gcd 180 32)
= (my-gcd 32 20)
```

## 例題7.ステップ実行



- 関数 my-gcd (例題 6) について, 実行結果に至る過程を見る
  - (my-gcd 180 32) から 4 に至る過程を見る
  - DrScheme の stepper を使用する

```
(my-gcd 180 32)
= (my-gcd 32 20)
= (my-gcd 20 12)
= (my-gcd 12 8)
= (my-gcd 8 4)
= (my-gcd 4 0)
```

# 「例題7.ステップ実行」の手順



- 1. 次を「定義用ウインドウ」で、実行しなさい
  - Intermediate Student で実行すること
  - 入力した後に, Execute ボタンを押す

```
### style="font-size: 150%;" my-gcd: number number -> number
### style="font-size: 150%;" my-gcd: number num
```

- 2. DrScheme を使って,ステップ実行の様子を確認しなさい (Step ボタン,Next ボタンを使用)
  - 理解しながら進むこと

## (my-gcd 180 32) から 4 が得られる過程の概略



#### (my-gcd 180 32) 最初の式

```
= (my-gcd 32 20)
= (my-gcd 20 12)
= (my-gcd 12 8)
= (my - gcd 8 4)
= (my-gcd 4 0)
                コンピュータ内部での計算
```

# (my-gcd 180 32)から (my-gcd 32 20) が得られる過程

```
(my-gcd 180 32)
= (my-gcd 32 20)
= (my-gcd 20 12)
= (my-gcd 12 8)
= (my - gcd 8 4)
= (my-gcd 4 0)
```

```
(my-gcd 180 32)
= (cond
    [(= 32 0) 180]
    [else (my-gcd 32
            (remainder 180 32))])
= (cond
    [false 180]
    [else (my-gcd 32
            (remainder 180 32))])
= (my-gcd 32)
     (remainder 180 32))
= (my-gcd 32 20)
      180を32で割った余り
```

は20

#### (my-gcd 180 32) から (my-gcd 32 20) が得られる 渦程

```
(my-gcd 180 32)
                           (my-gcd 180 32)
                           = (cond
= (my-gcd 32 20)
                               [(= 32 0) 180]
                  この部分は
                               [else (my-gcd 32
= (my-gcd 20 12)
                                      (remainder 180 32))])
                           = Cond
これは,
   (define (my-gcd m n)
     (cond
       [(= n 0) m]
       [else (my-gcd n
                (remainder m n))])
の m を 180 で, n を 32 で置き換えたもの
```

## my-gcd が繰り返される回数



```
(my-gcd 180 32) (1)
= (my-gcd 32 20) (2)
= (my-gcd 20 12)_{(3)}
= (my-gcd 12 8)
= (my - gcd 8 4)
```

m=180, n=32 のとき, 6回繰り返して実行される



# 12-3 課題

#### 課題1



- 関数 my-gcd (授業の例題 6 )に関する問題
  - (my-gcd 210 66) から 6 が得られる過程の概略を 数行程度で説明しなさい
  - DrScheme の stepper を使うと, すぐに分かる

# 課題 2



- バックの中のコインの合計を求める関数 sum-coin についての問題
  - 下記の空欄を埋めて,関数 sum-coins の定義を終えなさい。実行結果も報告しなさい
  - sum-coins は、コインの個数のリストと、コインの金額のリストの2つのリストを入力とする

## 課題2のヒント



ここにあるのは「間違い」の例です.同じ間違いをしないこと

#### 1. (= a empty) は間違い

⇒ a がリストのとき、(= a empty) はエラーです. 「=」は数値の比較には使えるが、リスト同士 の比較には使えないものと考えて下さい 正しくは、(empty? a) です

#### 課題3.繰り返し回数



- 関数 my-gcd (授業の例題 6 )に関する問題
  - m, n の最大公約数を,ユークリッドの互助法で求めた場合と,次ページに示すような方法で求めた場合とで,関数の繰り返し回数を比較し,自分なりの考察を加えて報告しなさい

「i で割り切れるかを調べながら, i を 1 減らす」ことを, 割り切れる まで繰り返す

- 1. まず, n と m の小さい方を変数 i に入れる.
- 2. iが n と m の両方を割れれば i の値を返し,終了.
- 3. i の値を1小さくして2へ.

(first-divisor n m (min n m)))

→ n と m は変わらない. i が変化

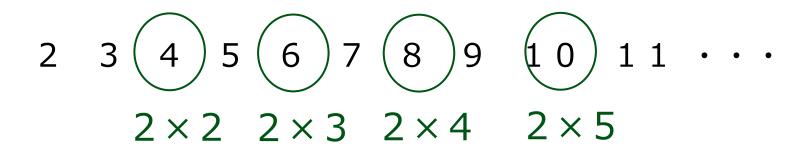
#### 課題4. エラトステネスのふるい



「エラトステネスのふるい」の原理に基づいて100以下の素数を求めるプログラムを作りなさい

## エラトステネスのふるい (1/4)

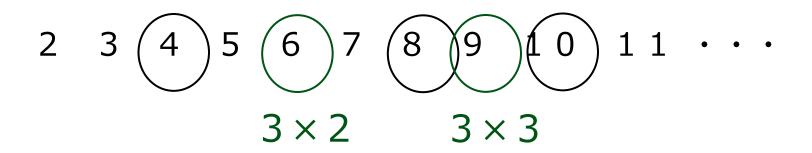




まず, 2の倍数を消す

## エラトステネスのふるい (2/4)

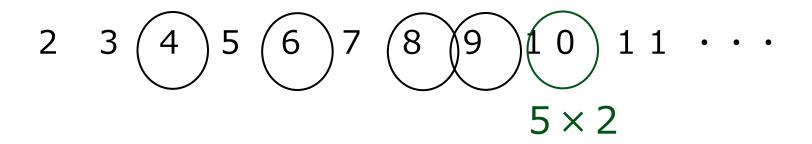




次に, 3の倍数を消す

## エラトステネスのふるい (3/4)

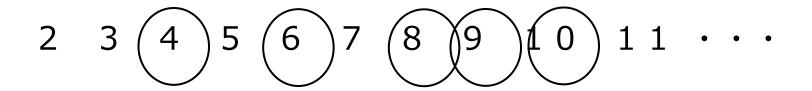




次に, 5の倍数を消す (「4の倍数」は考えない。 それは, 「4」がすでに消えているから)<sub>97</sub>

## エラトステネスのふるい (4/4)





以上のように、2,3,5・・・の倍数を消す.

10 (これは100の平方根)を超えたら、この操作を止める(100以下で、11、13・・・の倍数はすでに消えている)